

第 16 回日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM16）の結果について （大気汚染関係）

1. 日程：平成 26 年 4 月 28 日（月）～29 日（火）

2. 開催場所：韓国・大邱市

3. 主な出席者

日本 石原伸晃環境大臣

韓国 尹成奎（ユン・ソンギョ）環境部長官

中国 李幹傑（リ・ガンジエ）環境保護部副部長

4. 概要

三カ国の環境政策の進展、地球規模及び地域の環境課題、環境協力に係る三カ国共同計画の進捗状況等について意見交換を行い、大気汚染に係る以下の内容を含む共同コミュニケ（別添）を採択した。

- PM2.5 を含む大気汚染について、今後の協力内容（大気汚染政策、優良事例の交換、削減技術、評価手法等に関する協力、特に揮発性有機化合物やオフロード車の排ガス規制に関する経験の共有）について合意。
- 政策対話を定期的に開催し、さらに発展させていくこと及び政策対話の結果を局長級会合に報告することで一致。
- 既存の地域的な枠組みを活用し、国連環境計画（UNEP）や関係する国際機関の努力を認識。
- 都市間、研究所間、企業間での協力を歓迎。
- 2015～2019 年に三カ国間で以下の9 分野に優先的に取り組んでいくことに合意。
 - ①大気環境改善、②生物多様性、③化学物質管理と環境に係る災害対応、
 - ④資源循環利用/3R/電気電子機器の越境移動、⑤気候変動対応、⑥水及び海洋環境保全、
 - ⑦環境教育・人々の認識向上・企業の社会的責任、⑧地方環境管理、⑨グリーン経済への移行

また、日韓環境大臣バイ会談では、日韓で PM2.5 の測定、予測及びデータ共有等に関する協力を促進していくことで合意。

【参考】日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM= Tripartite Environment Ministers Meeting）

北東アジアの中核である日本・中国・韓国の三カ国の環境大臣が一堂に会し、本地域及び地球規模の環境問題に関する対話を行い、協力関係を強化することを目的に、1999 年（平成 11 年）から毎年各国持ち回りで開催。

第 16 回日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM16) 共同コミュニケ (抜粋)

9. 大気汚染：三大臣は、大気汚染により引き起こされる健康影響と環境影響を憂慮し、微小粒子状物質、オゾン、揮発性有機化合物 (VOC) や他の汚染物質等による大気汚染に迅速かつ効果的に取り組む必要性を強調した。三大臣は、地域における大気汚染の防止や管理に対する共同の取り組みを一層強化することに同意した。

三大臣は、2014年3月20日～21日に北京で開催された、第1回大気汚染に関する三カ国政策対話を歓迎した。三大臣は、VOCやオフロード車からの排出ガスの管理についての経験の共有など政策対話で特定された将来の協力分野を支持した。また、三大臣は、大気汚染防止政策の共有、優良事例、削減技術や評価方法等の紹介といった具体的な協力方策に同意した。政策対話が情報を共有し、パートナーシップを育む上で効果的な基盤と認識し、三大臣は、政策対話を定期的で開催し、さらに発展させていくことに同意した。さらに、三大臣は、政策対話の結果をTEMMの局長級会合に報告することに同意した。三大臣は、次の政策対話を2015年に韓国で開催することを認識した。

三大臣は、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET) や北東アジア長距離越境大気汚染 (LTP) プロジェクト等、当分野において進行中の協力活動の進展を認識し、これらのメカニズムの協力活動を拡大・強化する必要性を認識した。三大臣は、大気環境管理に関する既存の地域プログラムの一層の活用について協力することを想起し、地域での大気汚染の防止と管理に関する国連環境計画 (UNEP) や他の関連する国際機関の努力に留意した。三大臣は、地方自治体、企業、研究所を含む多様な主体による協力を歓迎し、実効性のある対策の実施を推進するために、このような協力関係を強化・促進することを奨励した。